

第91回特定原子力施設監視・評価検討会資料への御意見

2021/6/7 名古屋大学 山本

1.積算吸収線量が高い HIC の扱い

- ・積算吸収線量が 5000kGy を超えるものについて、入れ替えを行う方向性は妥当と考える。
- ・HIC→HIC の移し替え作業について、はじめにコールド試験を行う必要はないか。(低線量とはいえ、放射性物質を含むスラリーが格納されている HIC からスタートして問題ないか。)
- ・積算吸収線量が高い HIC については、内面観察とともに、外面観察も行う方が良いのではないか。
- ・また、移し替えの際には、ボックスカルバート内についても観察するのが良いのではないか。

2. ALPS 処理水の処分に係る検討状況

- ・分析対象をトリチウム、62 核種（ALPS 除去対象核種）及び炭素 14 に限定して良い理由をあらためて説明して欲しい。H26.3.12 に東電が多核種除去設備の除去対象核種の選定に関する文書を出しているが、C14 を除外しているなど現時点から振り返ると適切でない部分がある。現時点の知見で改めて分析対象をどのように選ぶべきかを詳細に示すべきではないか。

3.二号機シールドプラグの件

- ・1号機に比べ、ウエル内の線量は低いことから、ウエル内の Cs の付着状況は、1号と様相が異なっている可能性がある。事前に予測されていたシールドプラグに付着した Cs の量と、今回測定した線量は整合しているか。また、2号機の事故進展と今回の測定結果から考察できることはあるか。

4. 1号機大型カバーの設置

- ・今回の説明は、使用済燃料プールからの燃料取出までを視野に入れた説明であるが、燃料デブリ取出とこの大型カバーの関連を説明して欲しい。(燃料デブリ取り出し時に何らかの形で大型カバーを利用するのか、あるいは、燃料デブリ取り出し時は別途検討を行うのか)